



たまねぎ

品種

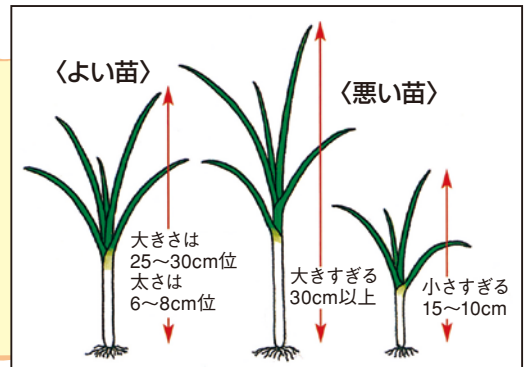
ネオアース(タキイ)：甲高豊円球で皮色が濃く、テリ・ツヤが良いです。熟期は貯蔵種としては早めの中晩生種。肥大性に優れ、貯蔵中の萌芽や尻部の動きが遅く、長期貯蔵が可能です。

ターボ(タキイ)：べと病や灰色腐敗病に強く、切り球と年内までの貯蔵用に適する中生種。玉は球に近い豊円球で首部もよくしまります。



ここが成功のポイント

生育初期には-8℃程度の低温にも耐えますが、球の形成肥大の適温は15～25℃の範囲です。根は浅根性で吸肥力が弱いので、定植後、根を十分に伸張させることが重要で、年内に十分活着させ、根群を発達させておきます。貯蔵性を高めるため、肥料遅効きさせないようにし、腐敗しないよう収穫後の初期乾燥を徹底しましょう。



作型の例

(◆ は種 ← 定植 ● 収穫)

作型	月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
春夏穫り		◆◆	←→								●●	

本圃管理

定植

- ◎定植時期は10月下旬～11月上旬頃。遅れると越冬性が低下します。
- ◎小苗や大苗は採苗の際に取り除き、葉が3～4枚、茎の直径6mm、長さ25～30cmの苗を選び、直射日光や風によって根を乾燥させないようにしましょう。
- ◎選別した苗を深さ3cmに植えつけ、定植時に根が乾いているときは、水に浸漬後定植します。

中間管理

- ◎活着後(11月中下旬)に追肥として野菜の達人(4kg/a)及び雪解け直後の3月中旬頃と4月中旬頃にそれぞれやさい燐加安S540(3kg/a)を追肥します。
- ◎収穫後の腐敗球防止のため、5月以降は追肥しません。
- ◎水不足では球の肥大が悪くなるため、乾燥が続いたら気温の低い時間帯に、短時間の畝間かん水をします。ただし、収穫間際のかん水は裂皮につながるのでおこなわないで下さい。

収穫

茎葉が70～80%倒伏し2、3日晴天が続いた後に収穫する。倒伏は、球の肥大充実が進むにつれ首の部分に中空部を生じ、この部分が簡単に倒れるためです。収穫は早すぎると減収し、遅れると腐敗が増加します。

施肥例

(kg/a)

肥料の種類	基肥	追肥
たかおか堆肥	200	
苦土石灰	10	
ようりん	4	
硝化燐安333	6	
やさい燐加安S540	5	3